

Harpegnathos venator

(Smith, 1858)

鋭い目と鎌のような大顎を持つ狩人で、じっと動きを止めてガスタ一を震わせたあと、生きた獲物に跳びかかります。



写真：portoid, CC BY 4.0



ひと目でわかる情報



巣の温度

24–28 °C

巣の中



巣の湿度

60–80 %

巣の中



休眠

不要



結婚飛行

まだデータがありません

雨のあと



働きアリ

14–18 mm

どれも同じ大きさ



女王

16–20 mm

女王は1匹または複数



コロニーの規模

働きアリ400匹規模

成長速度：普通



脱走リスク

中程度

アウトワールドに脱走防止の対策をしましょう



1年をひと目で



この種の実産地での月です。正確な日は天気で決まり、室内で飼育しているコロニーは別のリズムになることがあります。



同じ縮尺での大きさ

働きアリ 14–18 mm

女王 16–20 mm

0 5 10 15 20



飼育の早見表

食べ物

昆虫

おすすめの巣

- Ytongの巣
- 自然再現型のセットアップ
- 試験管セットアップ

この評価の理由

- ✓ 休眠の管理が不要です
- ⚠ 好奇心が強い働きアリなので、アウトワールドに脱走防止の対策をしましょう
- ⚠ 半閉鎖型：創設中の女王に餌を与える必要があります
- ⚠ 一年中、一定の暖かさが必要です
- ⚠ 働きアリが刺すことがあります



飼育者からのメモ

ヒント

巣は一定の暖かさを保って部屋を湿らせ、アウトワールドはもう少し乾かしておきましょう。涼しい室温に頼った飼育者は、ブルードの成長が遅く、蛹が羽化する前に開けられて食べられたと報告しています。一方、元気なコロニーの最近の報告の多くは、加温した巣か暖かい部屋で飼っています。

注意

餌は生きた獲物だけにしましょう。野外での試験では、熱湯で殺したゴキブリを働きアリは攻撃せず、ほとんどの飼育者が、コロニーは死んだ昆虫を無視すると報告しています。小さな生きたコオロギやゴキブリの幼虫が使えます。アリが捕まえやすいように、コオロギの後脚（ジャンプ用の脚）を外す飼育者もいます。コロニーがある種を無視するのなら別の種を試してください。あるコロニーはイエコオロギを拒みましたが、別種のコオロギはそのまま巣に運び込みました。